

SDGs 未来都市・横浜の取組について

- ▶ ヨコハマSDGsデザインセンターでは、事業者等のSDGsを活用した持続可能な経営・運営への転換に向けて、「横浜市SDGs認証制度“Y-SDGs”」を軸に、金融機関とも連携した支援を実施するほか、みなとみらい21地区に開設した新拠点も活用しながら、情報発信及びプロモーションをさらに充実させるなど、国内外の主体との連携強化に取り組む。
- ▶ これまで継続して実施してきた試行的取組をさらに深化し、実装を目指すとともに、脱炭素化を見据えた新たな取組などの多層化を図る。

1 横浜市SDGs認証制度“Y-SDGs”

(1) 認証状況

令和2年度の第1回・第2回認証に続き、令和3年度は第3回～第5回の認証を実施し、認証数は計305者。第6回は令和4年1月24日～2月9日の期間で申請受付。(1月27日17時時点で新規申請上限50件到達につき、受付終了)

認証区分	認証マーク	認証数
【最上位】Supreme (スプリーム)	Y-SDGs supreme	13者
【上位】Superior (スーベリア)	Y-SDGs superior	84者
【標準】Standard (スタンダード)	Y-SDGs standard	208者

(2) Y-SDGs金融タスクフォース

認証制度を活用した、金融機関等との連携による事業者支援に向けた取組の一つとして、市が複数の金融機関に呼びかけ、令和3年7月に設立。

ア 参加機関

金融機関：神奈川銀行、かながわ信用金庫、川崎信用金庫、みずほ銀行、三井住友銀行、三菱UFJ銀行、横浜銀行、横浜市信用保証協会、横浜信用金庫(五十音順)

協力機関：公益財団法人横浜企業経営支援財団

イ 開催概要

・第1回会合

《日時》令和3年7月29日(木) 10:00～11:30

《内容》内閣府地方創生推進事務局による講演、金融機関によるSDGsの取組紹介等

・第2回会合

《日時》令和3年10月19日(火) 10:00～12:00(オンライン開催)

《内容》Y-SDGsの活用に向けた認証事業者と金融機関による意見交換等

《主な意見》

- ・認証事業者の多くを占める規模の小さい企業の取組をPR等支援することが重要
- ・Y-SDGsを活用して、企業と対話し、取組をSDGsに結び付け、発信することが重要
- ・各金融機関の既存の金融商品を活用し、Y-SDGsと絡めて支援を行うことは可能



《第2回会合の様子(オンライン)》

ウ 今後の予定

事業者の脱炭素化に向けた取組の誘導・支援についての検討を実施

【参考】令和3年度脱炭素化・SDGsに関する意識調査結果(速報・抜粋) <別紙資料あり>
《期間》令和3年9月28日～10月11日 《対象》市内中小企業10,000者(回収数:2,170通)

■SDGsへの貢献の視点を持った経営、事業活動について

「関心がない」または「知らない」と回答したのは全体の約18%で、約8割は「関心がある」または「対応検討中」「すでに実施」と回答

■SDGsを経営や事業活動に取り入れるうえでの課題(複数回答可)

「どのようにSDGsを取り入れてよいかわからない」との回答が39%と最多

■横浜市SDGs認証制度“Y-SDGs”について

- ・「知らない」との回答が約74%
- ・認証事業者への支援として期待する内容(複数回答可)としては、「公共調達における優遇」の33%に次いで、「金融機関による融資」が26%と多かった。

2 デザインセンター新拠点を活用した情報発信・プロモーション

令和3年12月に、みなとみらい21地区58街区の横濱ゲートタワーに開設したヨコハマSDGsデザインセンター新拠点を活用し、多様な主体と連携しながら、イベントやセミナー等の開催を通じた情報発信やプロモーションの強化を行う。



<これまでの活用例>

(1) Love Local Life Lab. マルシェ

《開催日》令和3年12月22日(水)

《主催》Love Local Life Lab(地元密着、地産地消をモットーとし、SNSやワークショップ・施設見学会などを通してサステナブルな暮らしを提案する団体)

《内容》地産地消食材のマルシェ・廃棄予定の壁紙を活用したワークショップ

《来場者数》44名



(2) 脱炭素社会を生き抜くために！いま、企業に求められる「SDGs×脱炭素経営」

《開催日》令和3年12月23日(木)

《主催》三井住友海上火災保険株式会社

《内容》「SDGs×脱炭素経営」の基礎知識や取り組み方、横浜SDGs認証制度“Y-SDGs”について解説

《参加者数》30名(オンライン含む)



(3) 新しい働き方から始める、SDGsの推進

《開催日》令和4年1月21日(金)

《主催等》デザインセンター

(共催：ソフトバンク株式会社)

《内容》ショートタイムテレワーク紹介及び活用企業等によるトークセッション等

《参加者数》40名(オンライン)

ショートタイムテレワークとは

◆ ショートタイムワーク制度

超短時間で働ける仕組み

- ✓ 2015年～
- ✓ 東京大学先端研 (IDEAプロジェクト)
- ✓ 精神・発達障がいの方
- ✓ 20時間未満からの短時間就労

× テレワーク

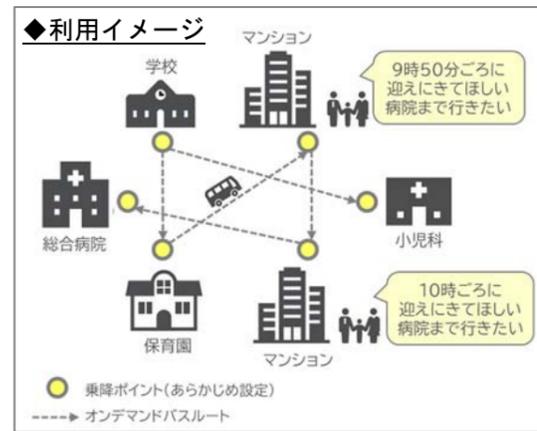
- ✓ 育児などの理由で長時間就労が困難な方
- ✓ 完全在宅の『ショートタイムワーク』
- ✓ 通勤時間が確保できない課題を解決

3 試行的取組の例（継続案件） — 旭区若葉台オンデマンドバス実証実験

ヨコハマSDGsデザインセンターでは、試行的取組の一つとして、子育て世代や高齢者が移動しやすい快適なモビリティ環境の構築を目的とした「オンデマンドバス」の導入に向けた実証実験を平成31年3月から計4回実施。今回実施する第5回の実証実験では、これまでの実証実験の結果等を踏まえたうえで、有償にて運行することにより、今後の実装に向けてのニーズや課題等を検証。〈別紙資料あり〉

(1) 今回実証における車両運行の仕組み

時刻表や指定ルートを持たず、利用者の要望に合わせた運行を行う乗合バス。ICT技術の活用により、利用者がアプリで登録した乗降場所に関する情報が、ドライバーの地図情報に登録され、予約状況に応じて運行ルートが変更されることで、多様なニーズに応じた効率的かつスムーズな移動を実現。



(2) 今回実験の実施体制

- ・運営主体：一般財団法人若葉台まちづくりセンター
- ・協力：ヨコハマSDGsデザインセンター、横浜市、神奈川県住宅供給公社、MONET Technologies 株式会社
- ・運行事業者：株式会社クワハラ

(3) 期間・時間帯

- ・令和4年2月1日（火）～3月25日（金）
- ・平日7：30～19：00

(4) 運行対象地域

- ・若葉台エリア：旭区若葉台1丁目から4丁目
- ・上川井エリア：旭区上川井町と川井本町の幼稚園、学校、福祉施設、病院
- ・霧が丘エリア：緑区霧が丘1丁目、3～5丁目、6丁目の幼稚園、学校、クリニック

(5) 料金

運行エリアにより、200円または300円（乗車券または現金、小学生以下無料）

(6) 車両

ワゴン車1台、5席（チャイルドシート1台・ジュニアシート2台付）

(7) 利用方法等

ア 予約方法

スマートフォンまたはパソコンにて予約（事前の利用者登録要）

イ 利用手順

- ①乗降ポイントから、出発地と目的地を登録
- ②乗車日時と人数を登録（乗車の7日前から予約可能）
- ③予約した日時にバスを利用

ウ その他

期間中、毎週火曜日にショッピングタウンわかば内で、アプリの利用相談会を開催



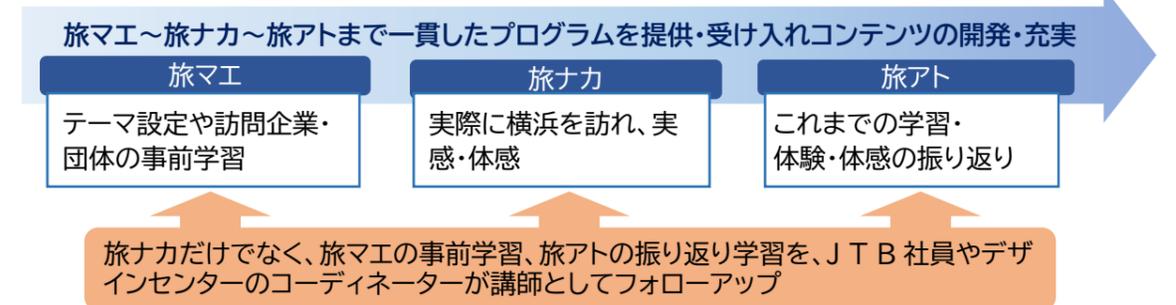
《今回実験の様子》

4 試行的取組の例（新規案件）

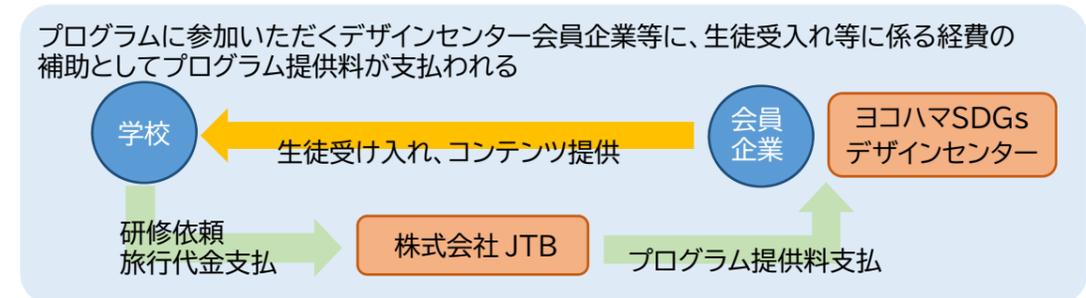
(1) SDGsをテーマとした中高生向け教育研修プログラム開発プロジェクト

- ・株式会社JTBとの連携によるプログラム。デザインセンター会員企業等の協力のもと、中高生が企業等のSDGsに関する取組について事前に探求し、直接学び、振り返りを行うことで、SDGsを「実感・体感」する。
- ・同時に、横浜の魅力を感じてもらい、研修以降にも横浜に訪れてもらうことで、将来的な経済活性化を目指す。

◆プログラムの流れ



◆事業スキーム（資金等の流れ）



(2) 「Renewable Diesel (RD)」普及促進プロジェクト

- ・伊藤忠商事株式会社及び伊藤忠エネクス株式会社と連携し、廃食用油等から生産される環境に優しい軽油代替燃料を普及促進
- ・伊藤忠エネクス株式会社により横浜市内の拠点で貯蔵され、使用する事業者へ配送
- ・今後は、多くの事業者による活用を推進するとともに、RDを活用した新たな連携プロジェクトの創出を目指す。



令和3年度脱炭素化・SDGsに関する意識調査結果（速報・抜粋）

《実施期間》令和3年9月28日～10月11日

《対象》市内中小企業10,000者（回収数：2,170通）

①「SDGs（持続可能な開発目標）」への貢献の視点を持った経営、事業活動を行っていますか。

（〇は1つ）

1	行っている	329 (15%)
2	対応を検討中	378 (17%)
3	関心はあるが対応を検討していない	1,006 (46%)
4	関心がない	193 (9%)
5	知らない	199 (9%)

②SDGsを経営や事業活動に取り入れる上での課題は何ですか。（複数回答可）

1	経営や事業活動にどうSDGsを取り入れてよいか分からない	847 (39%)
2	業種や事業内容がSDGsにそぐわないものと考えている	384 (18%)
3	取組を推進する人材がない	519 (24%)
4	業務量の増加につながり、取り組む時間が確保できない	441 (20%)
5	取り組むためのコストが負担できない	723 (33%)
6	取り組んだことによる効果が見込めない	429 (20%)
7	相談先がわからない	259 (12%)
8	取引先や従業員の理解が得られない	72 (3%)
9	その他	92 (4%)

③本市では、市内事業者等の皆様が持続可能な経営・運営への転換等を目指すことを支援するため「横浜市SDGs認証制度”Y-SDGs”」を運用していますが知っていましたか。（〇は1つ）

1	知っており認証を受けている	32 (1%)
2	知っており認証を受けることを検討している	155 (7%)
3	知っているが認証を受ける予定はない	314 (14%)
4	知らない	1,618 (74%)

④認証を受けた事業者への支援として期待する内容は何ですか。（複数回答可）

1	認証取得後の事業展開等に関するコンサルティング	354 (16%)
2	認証事業者の取組PR等支援	422 (19%)
3	他の認証事業者等とのマッチング・コーディネート等	222 (10%)
4	公共調達における優遇	727 (33%)
5	金融機関による融資	574 (26%)
6	その他	150 (7%)

若葉台オンデマンドバス

(1) これまでの実証実験の概要

第1回は若葉台地区内で1週間のトライアルとして実施し、第2回より対象エリアを近隣施設に広げ各1か月程度の期間で実施。ヒアリング結果等に基づき、第3回は福祉施設利用者向けに福祉車両を導入し、第4回は需要が比較的少ない時間帯を利用した新たな移動サービスニーズの掘り起こしのため、買い物代行及び子どもの送迎サービスを実施・検証。

回数	期間	概要	対象エリア	利用人数(延べ)
第1回	2019.3.20~3.26	モニターによる試乗	旭区若葉台地区	105名
第2回	2019.7.11~8.9	運行エリア拡大	若葉台地区及び近隣施設	851名
第3回	2020.1.14~3.13	福祉車両の導入	若葉台地区及び近隣施設	2,586名
第4回	2020.10.1~10.30	買い物代行 子どもの送迎サービス	若葉台地区及び近隣施設	1,052名

(2) 運行対象地域図

- ・若葉台エリア：旭区若葉台1丁目から4丁目
- ・上川井エリア：旭区上川井町と川井本町の幼稚園、学校、福祉施設、病院
- ・霧が丘エリア：緑区霧が丘1丁目、3～5丁目、6丁目の幼稚園、学校、クリニック

